

# 元気いっぱいかわらまち —サイエンスによる地域貢献—

代表者 安井 雅紀 (大学院教育学研究科1年)

## 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、夏休み中に高松天満屋や香川大学ミッドプラザ及びその周辺地域を拠点として、私たち大学生及び教員がボランティアで体験学習の形で来場の子供達や保護者の方々にサイエンスの普及に貢献し、瓦町を活性化するという目的で行いました。

## 2. 実施期間（実施日）

平成25年8月17日 から 平成25年8月18日 まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

トキワ街は、丸亀町商店街と比べて、暗く人通りも少なく、シャッターを閉めている店も多く見られることから、私たちが子どもの頃から親しんでいる瓦町境界を活性化させようと、このプロジェクトに取り組みました。私たちが実施する「おもしろわくわくサイエンス展」には、1000人以上の人が来場するので、その人たちに瓦町によってもらう作戦です。そこで、工夫として、昨年度からイベントにスタンプラリーを実施しました。つまり、スタンプラリー用の台紙にスタンプをたくさん貯めたら、香川大学ミッドプラザで景品交換するような

形で、お客さんをトキワ街に呼び込もうと考えたわけです。しかし、昨年実施したアンケートの結果から、香川大学ミッドプラザの場所が分からないというお客さんがいました。そこで、今回はトキワ街の空きスペースになっている、ジャンヌガーデンの利用を考えました。ジャンヌガーデンに行くためには、ミッドプラザを通らなければならない、そこで、昨年にはなかった野外活動型のおもしろ科学実験のブースを設置することによ



って、より多くの人に足を運んでもらえると考えました。

また、昨年同様、イベントの準備やイベント当日、学生ボランティア各自の都合で、参加できる時間帯と参加できない時間帯があるため、各自の入れる時間帯を聞いて、それぞれの都合の時間帯をもとにシフトを作りました。入れ替えのあるようなシフトで、できるだけ多くの学生ボランティアを呼び込みました。

会場は、高松天満屋、香川大学ミッドプラザ、ジャンヌガーデンに合わせて20のブースを設置しました。今、注目を集めている希少糖のブースや、徳島文理大学の「お菓子な！？お薬」のブース、今年からコラボレーションを始めた私立藤井中学校の入浴剤のブースが特に人気がありました。

今回のコラボレーション企業は、去年も大変お世話になった株式会社トクヤマにお願いしました。今回は、**（ブース一覧）**カルメラ焼きと燃料電池についてのブースを出し、どの子供も成功していました。

ブース一覧

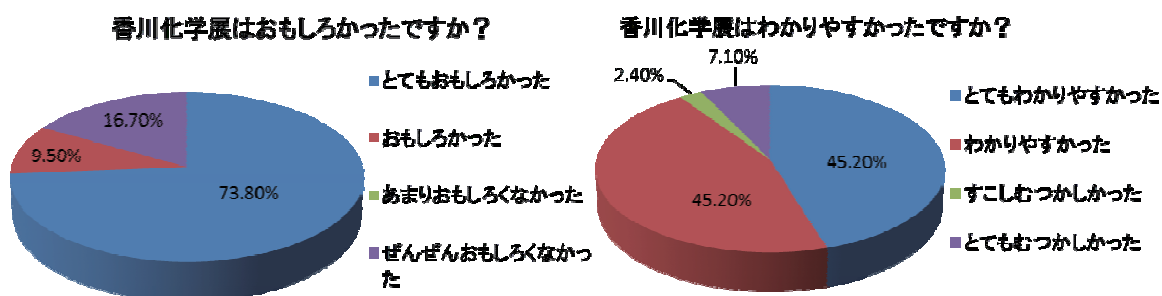
1. おもしろ化学実験
2. メルシー笑クラブ
3. オリジナル入浴剤を作ろう
4. イオン液体で遊ぼう
5. タンパク質の形を見よう
6. ミュージック&エコロジー
7. KUKAIのペーパークラフトを作ろう
8. 模型で見る四国の鉄道
9. カラフルな太陽電池を作ってみよう
10. 人工イクラを作ろう
11. カメレオン色素(キッチンサイエンス)
12. 健康に良い糖:希少糖(きしょうとう)を勉強しよう)
13. きれいな結晶
14. 不思議な光:偏光で遊ぼう
15. 薬剤師体験「お菓子な！？おくすり」
16. DNAに触れてみよう!
17. 何でも凍る！？-196℃の世界
18. 塩水で燃料電池を作ってみよう
19. カルメラ焼きを作ってみよう
20. スタンブラリー(参加された方はこちらでプレゼントと交換いたします。)

来場者数は以下の通りです。

	天満屋9階(人)				ミッドプラザ(人)			
	小学生以下		中学生以上		小学生以下		中学生以上	
17日	373	258	487	220	137	117*	103	---
18日	294	365	315	323	107	164*	98	---
合計	'13合計 1,469人		'12合計 1,166人		'13合計 445人		'12合計 281人	

今回、昨年と比べ、メイン会場の入場者数は1.25倍増、ジャンヌガーデンを会場にした効果があつてか、ミッドプラザの来場者数は昨年度の1.58倍増になりました。

アンケートの結果を以下に示します。



面白さや分かりやすさは、どちらも肯定的な意見が大多数を占めていることがわかりました。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

ジャンヌガーデンに野外活動型のおもしろ科学実験、香川大学サークル、メルシー(笑)クラブによるバルーンアートのステージを行うことにより、多くの人をトキワ街に呼び込むことができました。おもしろ科学実験では、子どもたちが裸足で入って感触を楽しむダイラタンシーや大きなシャボン玉を作って遊べ、野外活動ということもあり、とても楽しんでもらえました。本事業は、香川大学教育学部・教育学研究科の学生だけではなく、医学部、工学部、農学部学生および企業とのコラボレーションを実施していますが、今年は、さらに、サークルや地域の中学校も一緒に活動することができ、さらに幅が広がりました。また、会場も3会場になり、その分準備が大変でしたが、うまく活動できたと思います。



(ジャンヌガーデンの様子)

また、香川大学ミッドプラザを、スタンプラリーの景品の交換場所として活用しました。協賛企業であるルーヴから希少糖をつかったお菓子を提供していただき、天満屋会場の希少糖のブースとの相乗効果で、希少糖についてより広く知ってもらうことができたと思います。



(スタンプラリー)



(ミッドプラザ)

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

昨年も同様の活動を行い、学生はよりよい行事にしたいという思いで今回のプロジェクトに参加しました。会場に来た人たちが明るくなるような華やかな飾りつけを作成し

たり、子どもたちに楽しんでもらえるには、どのように教えたらいいかなど試行錯誤したりする姿が見られました。実際に子どもたちと接して、楽しかった、いい経験になったなど前向きな意見が多くありました。また、来年度のサイエンス展の実施がきまっており、今回の経験をもとに、よりよい行事にしていきたいと思えます。



(燃料電池を作っている風景) (会場に来ていた子どもたちと学生ボランティア)

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

イベント終了後に反省会を実施し、また、アンケートを集計することにより、新たな課題がみえてきました。まず、第一に1回だけの行事だけでは地域の活性化にはつながらないということです。地域の活性化のためには、行事の継続が必要であると感じました。行事の継続によって、はじめて地域に定着し、活性化につながるのではないかと考えます。今回、私たちは行事を運営するにあたって、後援・協賛企業とのつながりができ、香川サイエンス展について知ってもらえたと思えます。このつながりを、行事の運営、継続に活かしていきたいです。また、地域の活性化だけでなく、香川大学の良さをアピールすることで子どもたちにサイエンスの楽しさを伝えていく活動を、これからも行っていきたいと思っています。

## 7. 実施メンバー

代表者 安井 雅紀（大学院教育学研究科1年）  
構成員 王 珊（大学院教育学研究科2年）  
大西 弘訓（大学院教育学研究科2年）  
大西 美穂（教育学部4年）